

# 長崎の教会群とキリスト教関連遺産 — 長崎から世界遺産を！ —

第15回目



田平天主堂内観 ©日暮雄一

長崎県世界遺産登録推進室



## ■はじめに

今号では、平戸市田平町にある構成資産「田平天主堂」(国重要文化財)の見所をご紹介します。長崎県の北西部・松浦半島の先端に建つ田平天主堂は、平戸瀬戸を挟んで平戸島を望む開けた丘陵地にあります。広々としたこの地に、禁教の高札が撤去された後、黒島や外海の出津から信徒が移住し、集落が形成されました。

## ■解禁後の移住による新たなキリシタン集落

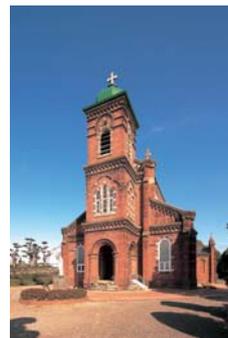
外海の主任司祭であったド・ロ神父は、地域の人々の苦しい生活を見て、他地区への移住開拓をすすめました。中村近蔵を田平に派遣して山林等を購入し、信徒4家族を移住させました。また、黒島からも信徒3家族が移住しています。こうして各地からの移住が相次ぎ、やがて集落が形成されると、1903年頃には仮聖堂が建立されました。現在の煉瓦造教会堂は、長い期間をかけて建設資金を積み立て、1915年に着工、1918年に献堂されたものです。



昭和24年(1949)の田平天主堂  
長崎県世界遺産「構成資産等基礎調査」報告書から転載

## ■田平天主堂の特徴について

田平天主堂の設計・施工は鉄川与助です。鉄川の煉瓦造教会堂としては最後の作品で、代表作の1つとして知られています。正面中央に方形の塔を配し、力強い安定感があります。1階には半円アーチの玄関部、2階には半円アーチの3連窓、3階には鐘楼を置いた半円アーチ窓があり、屋根はグリーンの八角形ドームとなっています。



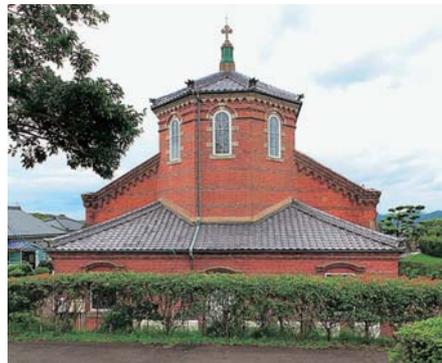
田平天主堂外観  
©日暮雄一

#### ◇煉瓦装飾

色の濃さを利用して、煉瓦が装飾材としても巧みに利用されています。煉瓦は長手と小口を交互に重ねるイギリス積みの手法がとられ、そこに色が濃い煉瓦をうまく配置し、壁面にボーダーラインを形作っています。また、軒先には特注の煉瓦を用いた装飾がなされ、窓回りには煉瓦と石材を交互に組むなど、独特の意匠となっています。

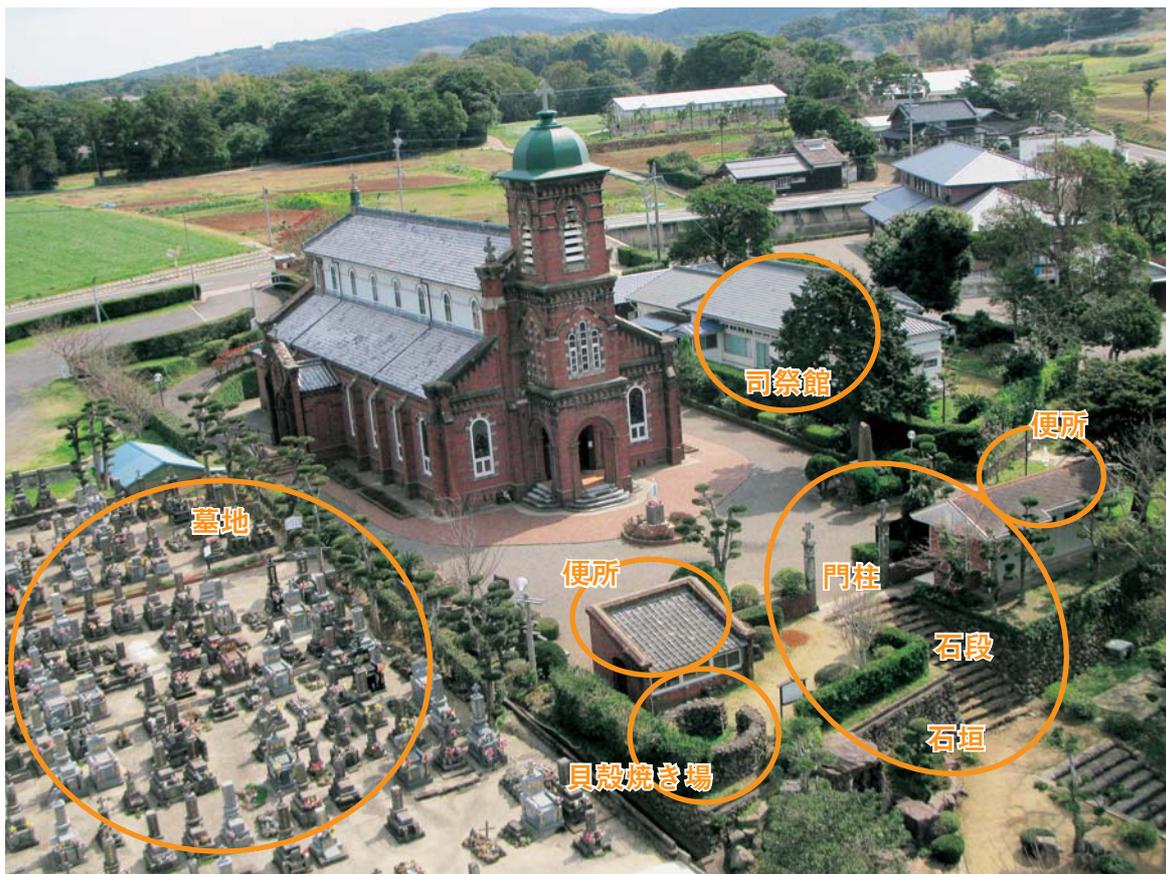
#### ◇貝殻焼き場

敷地の一角に、貝殻焼き場の跡が残されています。煉瓦の接合材に使う石灰が必要だったため、信徒が貝殻を持ち寄って焼き続け、手づくりで大量の石灰を作ったといわれています。時間をかけて熱し、細かく砕くなど大変な手間がかかったそうです。十分な資金がない中、工夫と努力が積み重ねられて、天主堂が建設された歴史の一端がうかがえます。



田平天主堂 背面  
壁面に煉瓦でボーダーラインが描かれている。  
「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」建造物調査報告書から転載

### ■田平天主堂の歴史的景観



敷地内には、南に司祭館、西正面には一对の門柱、石段、石垣が、その脇には煉瓦造の便所と円形に自然石を積み上げた貝殻焼き場が残され、これらが一体として国重要文化財に指定されています。また、隣接する墓地には、日本式の墓石に十字架が飾られた和洋折衷の墓碑や、自然石を積み上げたものなど特徴的なお墓もあります。このように、田平天主堂の周辺には歴史的景観が良好に残されています。